FORUM

第51回日本てんかん学会学術集会：特別講演1

「Samuel Wiebe 先生特別講演：てんかんにおける個別化医療」聴講記

梶川駿介
（京都大学大学院医学研究科臨床神経学）
池田昭夫
（京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座教授）

2017年11月3日（金）：京都国際会議場

はじめに

今回，Samuel Wiebe 教授が第51回日本てんかん学会年次学術集会（2017年11月3～5日，京都国際会議場）において特別招待講演をされた「てんかんにおける個別化医療」を拝聴し，その内容についてご紹介する．個別化医療「Precision Medicine」とは，今後私たちが注目することになるであろうパラダイムであり，今回の講演はその詳細および今後の展望について述べられていた．

Samuel Wiebe 教授
Departments of Clinical Neuroscience, Pediatrics and Community Health Sciences, University of Calgary, Canada

1．まず，はじめに典型的な症例が提示された．

具体的には，12年間局在性意識減損発作，過運動発作を週単位で起こす30歳右利き男性で，てんかんの家族歴を兄と叔父に認めた．カルバマゼピン，ラモトリギンによる治療を行われたがコントロールは不良で，また，それ以上の内服治療を希望されなかった．彼は

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.